

令和 5 年度白樺学園高等学校との包括連携協定事業 (1 学年) 総括 (案)

1 事業の根拠

- (1) 芽室町自治基本条例第 3 条第 6 号 (議会と議員活動の原則)
- (2) 芽室町議会基本条例第 2 条第 4 項 (基本理念)
- (3) 芽室町議会基本条例第 8 条第 1 項 (町民参加及び町民との連携)
- (4) 白樺学園高等学校と芽室町議会の包括連携協定書第 1 条

2 事業目的

「若い世代の考えを政策に反映する」ことを目的とし、現職議員の講話を通じて、議会の仕組みを理解するとともに、まちづくりに参加する機会とし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、議場体験を通じ、近い将来の主権者としての意識を高めることを目標とする。

3 実施実績

令和 6 年 2 月 6 日 (火) ～ 9 日 (金) の 4 日間

- ・ 2 月 6 日 (火) ①午前 3 2 名
- ・ 2 月 7 日 (水) ①午前 1 1 名、②午後 2 3 名
- ・ 2 月 8 日 (木) ①午前 3 2 名、②午後 3 4 名
- ・ 2 月 9 日 (金) ①午後 2 5 名

4 総括

(1) 成果 目的は概ね達成

事前に学校を訪問しての講話がなかったため議場体験のみ実施。

時間的に余裕もあったため質疑応答の時間も設けることができ、「議会活動の認知度向上」、「まちづくりに関心を持ち参加する機会」につながったと考える。

(2) 課題 実施時期、議場体験の内容等、次年度向けには再考が必要。事業の継続について今後も学校側との協議を行い、事業について双方検討する。

(3) 今後の取組み

令和 5 年度議会活性化策「5 多様な議員のなり手実現に向けての検証」の中で、「高校生との連携事業等についての目的の明確化と事業内容の協議、検討」を掲げて事業実施を行ったため、今後の目的の明確化と事業内容の協議については、一定整理できている (毎年度の事業内容については、学校側との協議が必要)。

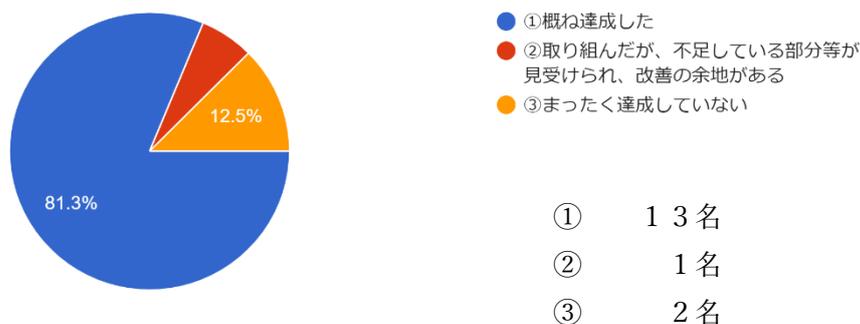
議員の振り返り

1 当日の運営について（方法、内容、進行など）

- ・ 事前資料に基づき役割り分担をしての進行。特に問題なく実施できたのではないかと思います。
- ・ 学校側との事前打ち合わせの関係かスムーズであったと思います。
- ・ 特に問題なかったと思います。体験回数について各先生で差があったので予めコンセンサス取っておいた方が良いのかなと思いました。
- ・ 初日のみの対応でしたが、例年の取り組みの他に議会の簡単な説明及び質疑応答の時間をとれた事は良かった。新たな発見でした
- ・ 問題なし
- ・ 最小限の人数で取り組んだが特に問題はなかった。議員の解説がわかりやすく、生徒も関心をもって聞いていた。そのため質問が活発だった
- ・ 学校主導の授業の一環だと思っているので、特にありませんが、シナリオが早く終わり、その後の時間を想定していなかった。
- ・ 先生方との協議になろうかと思いますが、2パターンのシナリオがあったら良かったかなと感じました。時間的な余裕があり、生徒からの質疑の時間があったのは良かったです。
- ・ スムーズだったが、議員と高校生との交流という視点から考えると対応議員が少人数すぎたと考える。
- ・ 特に問題なくスムーズに進行したと思います
- ・ 担当議員の臨機応変な対応でスムーズに進行出来た
- ・ 時間に余裕があったため、議会について説明する時間、質疑応答の時間を作ることができた。そのことによって議会の認知度向上と生徒との交流を深めることができた。
- ・ 問題なく運営できた。

2. 事業評価について（目的の達成度）

16件の回答



2-2 上記で②と③と回答した方は具体的に記載願います

- ・包括連携では良いかもですが、議会として何が意味するのか、主権者教育になったのか、理解出来ませんでした。
- ・議会の作法を教えているに過ぎないと思う。生徒が主体的に考えたことをサポートするなど目的達成の手法が違うのではないか。
- ・議会側の意見を反映する場がない

3 全体を通して何かありましたらご自由に記載願います

- ・今回のクラスはスポーツ科の生徒だったので元気も良く議員に対する質疑もあり良かったと感じている。
- ・咄嗟ではありますがシナリオの他に質問時間を設けたのが良かったと感じた。事業を継続し学校側と協議し、マイナーチェンジやモデルチェンジなど改善しながら進んでいければ良いと思います。
- ・この種は執行側、特に教育委員会と実施することが意味があると思います。
- ・学生の遠慮が少し感じられた。生徒への質問に将来政治に関わりたいか？などの問い掛けがあっても良かったと思いました。
- ・例年同様の内容での事業でしたが、学校内で一般質問、条例制定の内容については先生と生徒の協議によって決定した方がより良いものになるかもしれません。
- ・時間が余ってしまった。検討が必要
- ・議場体験をやるのが目的化している。来年度の事業は実施することを前提とせず、事業の縮小等も含めて議論をすべきだと思う。
- ・議会にしてみると毎年同じことの繰り返しに感じるかもしれないが、特に1年生の生徒にとってみれば初めて議員や議会と触れる機会になっていることを再認識する必要がある。
- ・議会やまちづくりに関心を持つきっかけとなる事業であるため、今後も学校側と協議しながら取組んでいくことが重要であると感じる。
- ・今回は学校に行って説明する時間がなかったのも、負担感が少なく良かった。
- ・今回は、特別委員会の視察等で対応する議員配置も大変だったと思います。経験してみても3～4名の議員対応でも十分かなと感じました。
- ・平成28年から実践してきた事業だが、最近では執行機関や民間事業者団体も高校生へのエンパワーメントに取り組んでいる状況を踏まえると、町の将来を見据え、先んじて取り組んできた議会の姿勢に誤りはなく「継続は力なり」を実感している。
- ・体験シナリオは議会が点検すべき
- ・議場体験を通じて議会についての理解と認知度を深めることにつながった。
- ・議会体験は良い経験になったと思います。今後は学校の問題を質問に落とし込むとリアリティが出るのではないのでしょうか。